

中心市街地活性化基本計画（小倉地区）の最終フォローアップについて

1 計画概要

■基本テーマ
『世界の環境首都を目指す北九州広域都市圏の中心核（顔）にふさわしい機能・環境・つながりを創出する先進都心・小倉』

■活性化の目標

目標	目標指標
①広域商業拠点の賑わいの向上	商店街エリアを中心とした歩行者通行量
	既存の主要大規模商業施設の年間来店者数
②文化的で非日常的な都心の魅力向上	主要な歴史・文化コンベンション施設の年間来場者数
③昼間人口の拡大による活力向上	事業所従業者数

■計画期間：平成 20 年 7 月から平成 26 年 3 月まで（5 年 9 ヶ月）

■区域面積：約 380ha

■事業数：103 事業（平成 26 年 3 月末時点）

2 進捗・完了状況

総事業数 103 のうち 98 事業は計画期間内に着手し、全体の9割以上で具体的な取組が進められており、概ね順調に進捗・完了している。

（平成 26 年 3 月末時点）

総事業数		103 (100%)
完了		47 (46%)
実施中	実施中・着工済み	50 (48%)
	準備・計画段階等一部着手中	1 (1%)
計		98 (95%)
未着手		5 (5%)

- （主要事業）
- ・小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生（あるある City）
 - ・北九州市漫画ミュージアム整備
 - ・魚町銀天街ショッピングモール化（ジョイントアーケード）
 - ・小倉記念病院新築移転
 - ・九州厚生年金会館リニューアルオープン（アルモニーサンク）

3 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

- ・基本計画に基づき、ハード・ソフトの両面から、官民一体となり各種事業を実施した結果、「都市計画道路博労町線」や「あさの夕風公園」などの公共インフラ整備が相当程度進捗し、都心への交通アクセス強化や都心の魅力向上が図られた。
- ・小倉駅周辺に「あるある City」など新たな賑わい拠点が形成され、多様な人々の集客回遊の拠点としてまちなかの賑わい創出に大きく貢献するとともに、2つの商店街を繋ぐルーフの整備により来街者が安全・快適に回遊することができる環境が整った。

4 活性化の状況

(1) 中心市街地活性化協議会の意見 . . . 若干の活性化が図られた

- ・まちなかには活性化の兆しが現れるなど、徐々にではあるが取組の効果が始まっており、基本計画は相当程度の効果があった。

(2) 市民アンケートの結果 . . . 若干の活性化が図られた

- ・設問 まちづくり全般について「以前と比べ活性化したか、魅力が増したか」肯定的な意見 . . . 約4割、 否定的な意見 . . . 約2割

(3) 市の総合的な評価 . . . 若干の活性化が図られた

- ・「道路・公園などの公共インフラ整備」や、「商業・医療機能など民間投資」さらに「まちづくり団体の新設や活動の活発化」により、都心部の魅力や快適性が向上し、まちなかの歩行者が増加するなど、まちの賑わいや活力が向上した。
- ・「中心市街地活性化協議会の意見」や「市民アンケートの結果」を含め総合的に勘案すると、中心市街地の活性化には一定の効果があった。

5 今後の取組

- ・今後は、これまでに整備した新たな集客施設や都市基盤施設を活用し、来街者の回遊性向上を図るなどソフト事業に重点を移しつつ、より力強い活性化に向けた流れをつくる取組を進める。
- ・計画期間内に着手できなかった民間事業の進捗を注視するとともに、既存事業の拡充などについて検討を行うほか、引続き地元商業者等と密にコミュニケーションを取りながら、官民一体となって商業の活性化を推進するなど、中心市街地の更なる活性化に向けた取組を着実に推進する。

(参考) 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
広域商業拠点の賑わいの向上	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	146,958人/日 (H19)	177,000人/日 (H25)	152,265人/日	H26.3	B
	大規模商業施設の年間来店者数	48,695,683人/年 (H18)	52,000,000人/年 (H25)	45,548,223人/年	H26.3	C
文化的で非日常的な都心の魅力向上	主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数	165.0万人/年 (H18)	197.0万人/年 (H25)	182.7万人/年	H26.3	B
昼間人口の拡大による活力向上	事業所従業者数	64,612人 (H18)	69,000人 (H25)	65,264人	H26.3	B

注) 達成状況欄

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

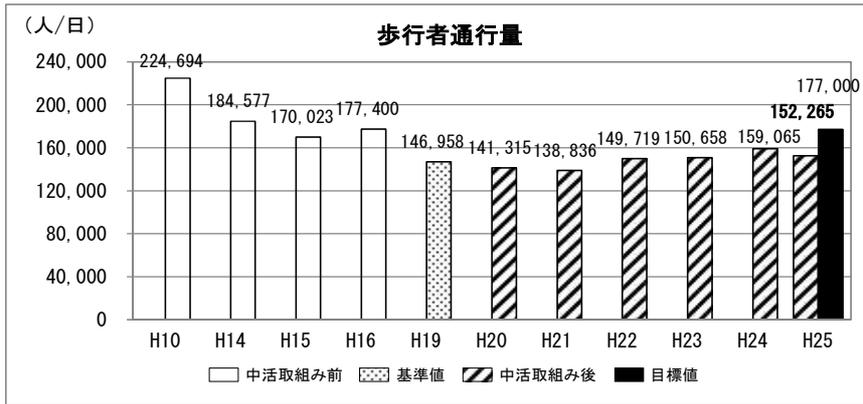
B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

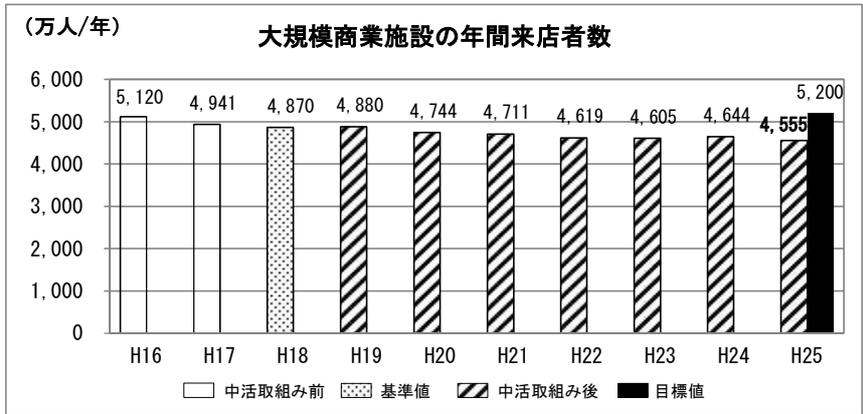
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

○目標指標1「商店街エリアを中心とした歩行者通行量」



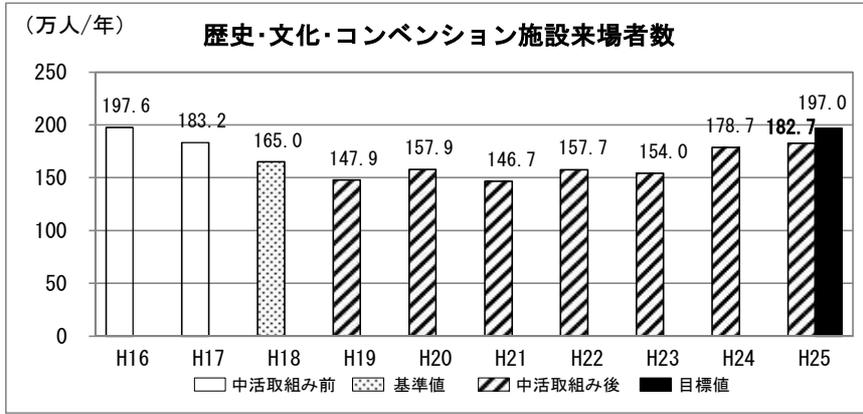
集客施設の整備等により、中活取組前の減少傾向から、平成22年度以降増加傾向に改善している。

○目標指標2「既存の主要大規模商業施設の年間来店者数」



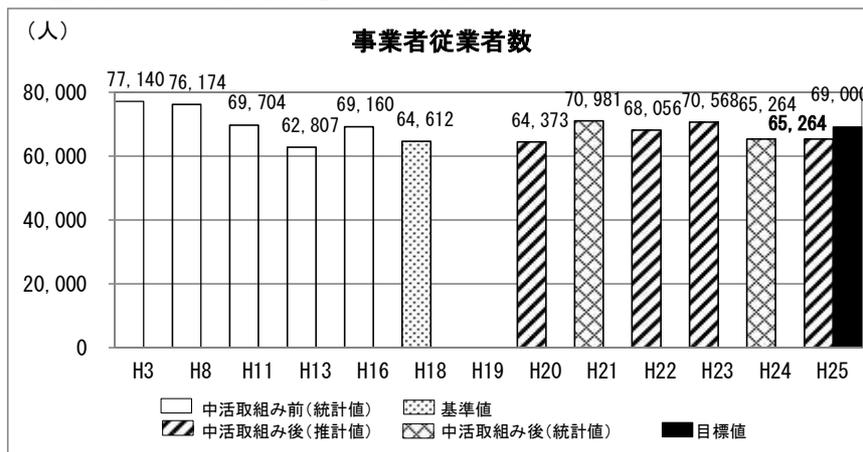
中活取組前の減少傾向から、中活取組後は横ばい傾向に転換してきている。

○目標指標3「主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数」



取組前の減少傾向から横ばい傾向に転じ、平成24年以降増加傾向に改善している。

○目標指標4「事業所従業者数(民営)」



中活取組前の減少傾向から、平成20年以降増加傾向に改善している。
※H18年とH21・24年では国の統計手法が異なる